

2024年3月2日(土)～3月3日(日)

大学評価学会 第21回全国大会

高等教育無償化の未来

— 日仏比較の視点から —

フランスでは昨年6月から7月にかけて各地で暴動が起きた。移民系の若者が警官に射殺されたことがきっかけだった。マクロン大統領は警官の対応に問題があったことを認めながらも、秩序の維持は大切であると言うばかりでなにもできない。7月14日の建国記念日には何ごともなかったかのようにシャンゼリゼ大通りでパレードが行われ、エコール・ポリテクニークの生徒たちもナポレオン時代からの制服で進んだ。しかし暴動にさいしてやり場のない怒りを爆発させた警官や若者たちはいったいどこに行ったのだろう。彼らは高等教育をきちんと受けているのだろうか。

アシッド（ACIDES、酸っぱい奴ら？）という名の大学教員のグループは、2015年に『学費を止めよう！無償と解放の高等教育のために』という本を出版した。そのなかですべての学生のための「普遍的自律手当」（AUA：allocation universelle d'autonomie）を提言した。大学の学費がほぼ無償のフランスでも学生は生活するのに親の援助を受けねばならない。さもなければアルバイトをするが、学業がおろそかになって中退せざるをえなくなるケースも増える。だから学費の無償化に加えて、学生に生活費と住居費をすべからく配ろうというのである。高等教育の学位をえて就職し、一定水準の収入がえられるようになったすべての者が、そのための基金に拠出する。さらに相続税や贈与税をみなおし、累進課税を徹底する。そうすれば財源的には不可能ではないとアシッドはいう。アシッドはそれに加えて、大学の教育環境を改善するために学生一人あたりに支出する公的資金の額をグランドゼコールおよびその準備級なみに引きあげることも提言している。

高齢者の年金さえまならないフランスでどうして「学生年金」なのだろうか。若者も高齢者のための年金デモに参加するフランスでは、不可能なことを求めること自体は不可能ではないかのような（本の最終章のタイトルは「リアリストであろう、不可能性を求めよう」となっている）。政治を動かし、つぎの大統領選挙でAUAを公約に掲げる候補者が当選すればよいのである。

シンポジウムではこうしたフランスの教員グループの提言の背景をさぐるとともに、日本とフランスの現状を踏まえながら高等教育無償化の未来を考えてみたい。

3月2日（土） 9:00 受付開始

9:15～ 9:25 開会行事

9:30～12:30 自由研究発表Ⅰ

13:30～14:15 会員総会

14:30～17:30 大会シンポジウム

テーマ：高等教育無償化の未来

基調報告：マラルメの「文学基金」とアシッドの提言の連続性について

岡山 茂（早稲田大学）

3月3日（日） 9:00 受付開始

9:30～12:00 自由研究発表Ⅱ

13:00～14:30 課題研究Ⅰ（教職協働）

14:40～16:10 課題研究Ⅱ（発達保障）

16:15～16:30 閉会行事

【会場】

早稲田大学 早稲田キャンパス
3号館 305教室

* 会場校の都合により教室変更の可能性あり

【開催方式】

対面・ZOOM併用によるハイブリッド方式（全日程）

【参加費】

無料（対面・オンラインとも）

【参加申込】

対面参加・オンライン参加に関わらず、必ず大学評価学会ウェブサイト（<http://aue-web.jp/>）第21回全国大会参加申込より、2月29日（木）までにお申込みください。

【問い合わせ先】 大学評価学会 第21回全国大会実行委員会 info[at] aue-web.jp

* [at]を@に変えてご送信ください